

## 取組の理念と重点的な分野

すべての高齢者が、支え合いながら、いきいきと心豊かに、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる東京の実現

○ 介護予防の推進

○ 社会参加の促進

○ 生活支援サービスの充実

○ 見守りと安全安心の確保

○ 地域包括支援センターの機能強化

## 主な取組

### 1 高齢者の自立支援に向けた介護予防の推進

#### ◆介護予防・フレイル予防の普及啓発

ポータルサイトの運用や、リーフレットの配布等により、都民に向けて、介護予防・フレイル予防の基礎知識や、予防に取り組みたい人に役立つ情報等を発信

#### ◆介護予防・フレイル予防支援強化事業 (予算 358百万円)

##### ○ 介護予防・フレイル予防推進員配置事業

通いの場等の介護予防活動の拡大・機能強化を図るため、推進員を配置する区市町村を支援

##### ○ 介護予防・フレイル予防推進支援センター設置事業

通いの場等の一層の拡大、機能強化を推進する区市町村に対し、東京都健康長寿医療センターの知見を活かした専門的・技術的な支援を提供

#### ◆短期集中予防サービス強化支援事業 (予算 33百万円)

短期集中予防サービスに取り組む区市町村に対し、定期的な訪問や助言等により一定期間支援し、要支援者等のセルフケア能力の向上や社会参加の促進を図る

#### ◆新しい日常における介護予防・フレイル予防活動支援事業

(予算 423百万円)

感染症対策を講じた通いの場等の活動や、オンラインツールを活用して行う介護予防・フレイル予防活動に取り組む区市町村を支援

### 2 地域における支え合いと社会参加の促進

#### ◆人生100年時代社会参加マッチング事業 (予算 139百万円)

シニア・プレシニアの継続的な社会参加を促進するため、希望に応じた仕事や学び、趣味、地域活動ができるよう情報を一元化するとともに、区市町村の取組を支援

拡充

#### ◆人生100年時代セカンドライフ応援事業 (予算 332万円)

- ・文化・教養・スポーツ活動など高齢者の生きがい活動等の促進
- ・地域活動への参加を希望する高齢者向け講座を開催する区市町村を支援

#### ◆生活支援体制整備強化事業 (予算 22百万円)

生活支援コーディネーターの養成研修、情報交換の実施により区市町村の生活支援体制整備の取組を支援

#### ◆東京ホームタウンプロジェクト (予算 36百万円)

企業人等による「プロボノ」支援などを通じ、区市町村等の地域活動やその担い手創出を支援

#### ◆包括補助による見守りの取組支援

- 高齢者見守り相談窓口設置事業
- 見守りサポーター養成研修事業
- 高齢者等の地域見守り推進事業
- ICTを活用した高齢者等の地域見守り事業

### 3 地域包括支援センターの機能強化

#### ◆地域包括支援センター機能強化支援事業

- 機能強化型地域包括支援センター設置促進事業 (包括補助)
- 総合相談体制整備強化事業 (包括補助)

#### ◆地域包括支援センター職員研修等事業 (予算 11百万円)

#### ◆自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議推進事業 (予算 15百万円)

# 人生100年時代社会参加マッチング事業 背景及び課題・事業内容・事業イメージ

## 【背景及び課題】

### ■高齢者の社会参加の意欲が実際の活動に結びついていない

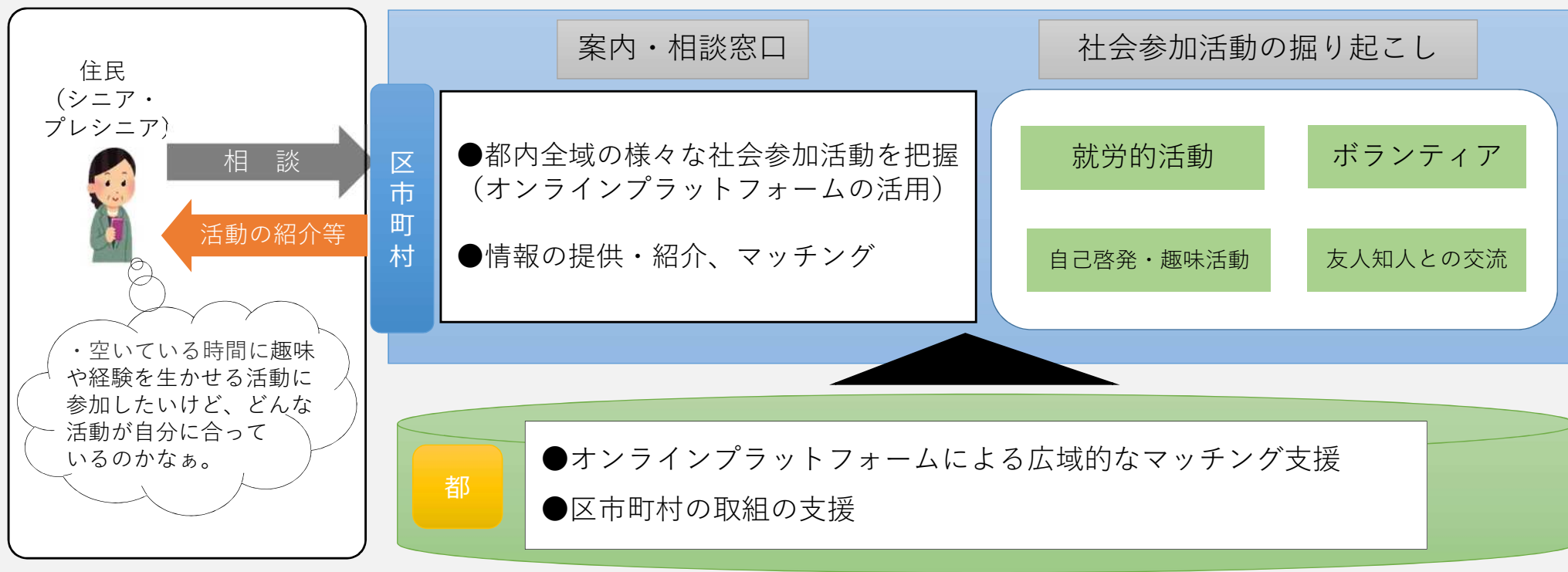
- ・ 地域活動等への参加希望は約 8 割(※1) ⇔ 現在の高齢者の社会参加は約 5 割 (※2)
- ・ 社会参加しない理由(※3) 「きっかけがない」(20.9%)、「興味のある活動内容がない」(15.5%)、「仲間がない」(14.2%)、「活動の情報がない」(10.5%)

※1：令和2年度インターネット福祉保健モニター「高齢期における地域活動等の意向」について ※2、3：令和元年度在宅高齢者の生活実態調査報告書

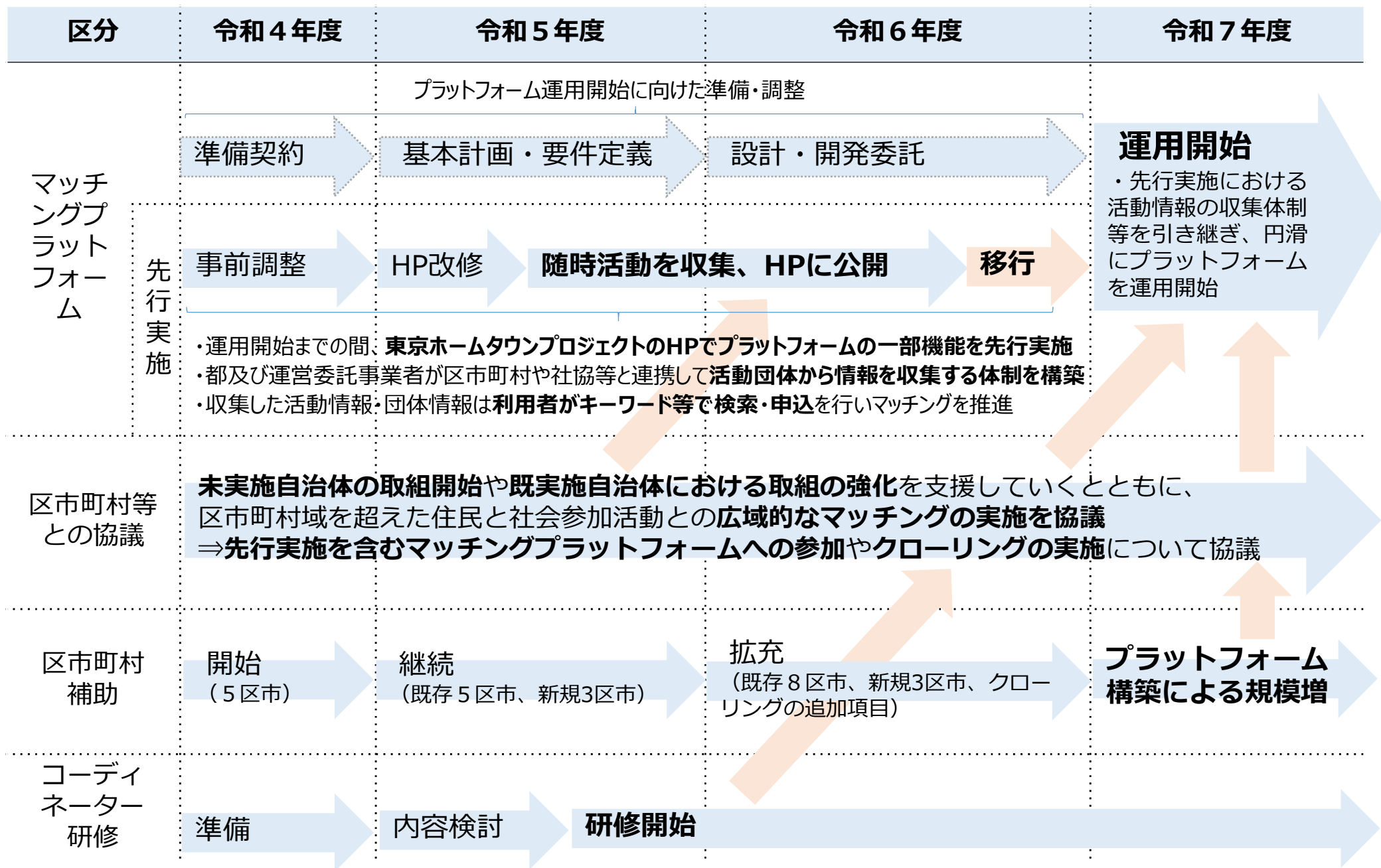
## 事業内容

シニア・プレシニアの継続的な社会参加を促進するため、委員会を設置し、広域的な観点から効果的なきっかけづくり・マッチング等に向けた施策を立案するとともに、区市町村の取組を支援する。(令和4年度事業開始)

## 【事業イメージ】

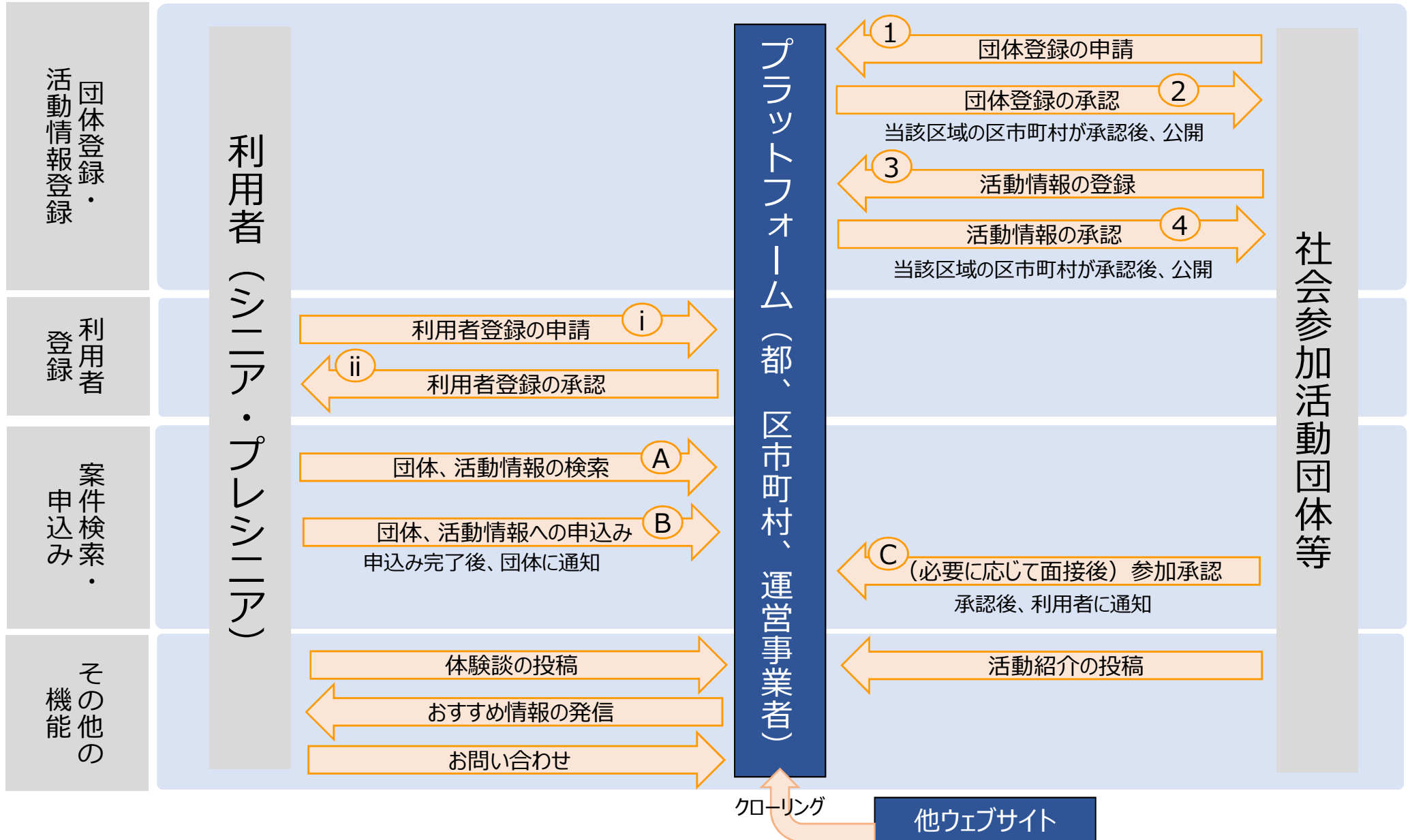


# 人生100年時代社会参加マッチング事業 今後の事業スケジュール



# オンラインプラットフォームの詳細案 手続きのフロー図

- 今後、徐々に機能拡充をすることも視野に入れながら、初期立ち上げ段階としてプラットフォームの基本機能や関係者の役割分担を以下のように整理することを考えている。



地域の高齢者が気軽に立ち寄り、飲食をしながら様々な交流をすることができるTOKYOシニア食堂の取組を推進することにより、高齢者の交流機会の増加、心身の健康増進、多世代交流の促進を実現することを目的とする。

## 高齢者の一人暮らし世帯数の増加



## 食を通じた 高齢者の居場所づくり

- ✓ 交流機会の増加
- ✓ 心身の健康増進
- ✓ 多世代交流 など

## 事業概要

【実施方法】 地域において高齢者が参加できる会食活動を実施する事業又は地域の住民等が主体となって実施する会食活動を育成・支援する事業を実施する区市町村に対し、都が補助を行う。

【補助対象経費】 会食事業と会食事業に付帯する講座や多世代交流等の実施に要する費用（補助率:10/10）

- (1) 会食事業の開催 1 食堂あたり 10千円×実施回数
- (2) (1)に加え、高齢者の心身の健康増進や安全安心な日常生活に資する講座等の開催  
(加算) 1 食堂当たり 50千円×実施回数
- (3) (1)に加え、多世代交流機会の確保など、孤独感の解消や生きがいの増進に資する  
取組 (加算) 1 食堂当たり 110千円×実施回数

【実施規模】 90カ所



# 【新規】要介護度等の維持改善に向けた介護事業者の取組促進

## 【現状と課題】

- ・ 高齢者の自立支援・重度化防止に向け、サービスの質の評価やデータ活用を行いながら、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスの提供が求められている
- ・ 国は平成29年度及び令和3年度改定において、介護報酬の加算を充実
- ・ 国においては、科学的介護の推進のため、LIFE（科学的介護情報システム）を運用開始  
→ 都の課題 介護報酬等は充実したものの、取組を進める事業者が一定数にとどまっている

事業者への意識づけのほか、取組へのメリット等も含めてわかりやすく周知するとともに、取組を促すためのインセンティブが必要

## 取組内容

### （1）科学的介護定着促進事業

- 都内事業所における科学的介護（エビデンスに基づく介護）の実現を目指し、各事業所においてPDCAサイクルを回しながらケアの質の向上に向けた取組を行うことの浸透・定着を促進するため、以下の取組を実施  
実施内容：講演会の開催（対面及びweb方式）、講演会動画の配信等

### （2）要介護度等改善促進事業

- 利用者のADL（日常生活動作）及び要介護度の維持・改善に資する取組を行った事業者に対し、都独自に報奨金を支給することにより、要介護高齢者の自立支援及び重度化防止の取組を促進

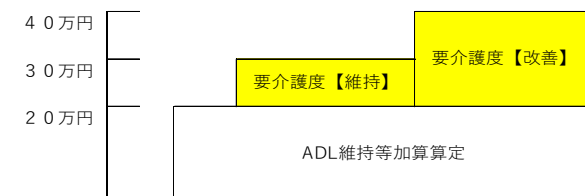
対象サービス：特別養護老人ホーム、通所介護、

特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム等）

実施内容：利用者のADL・要介護度の維持・改善状況により

報奨金（20～40万円）を支給

ADL維持等加算×要介護度改善の加算イメージ



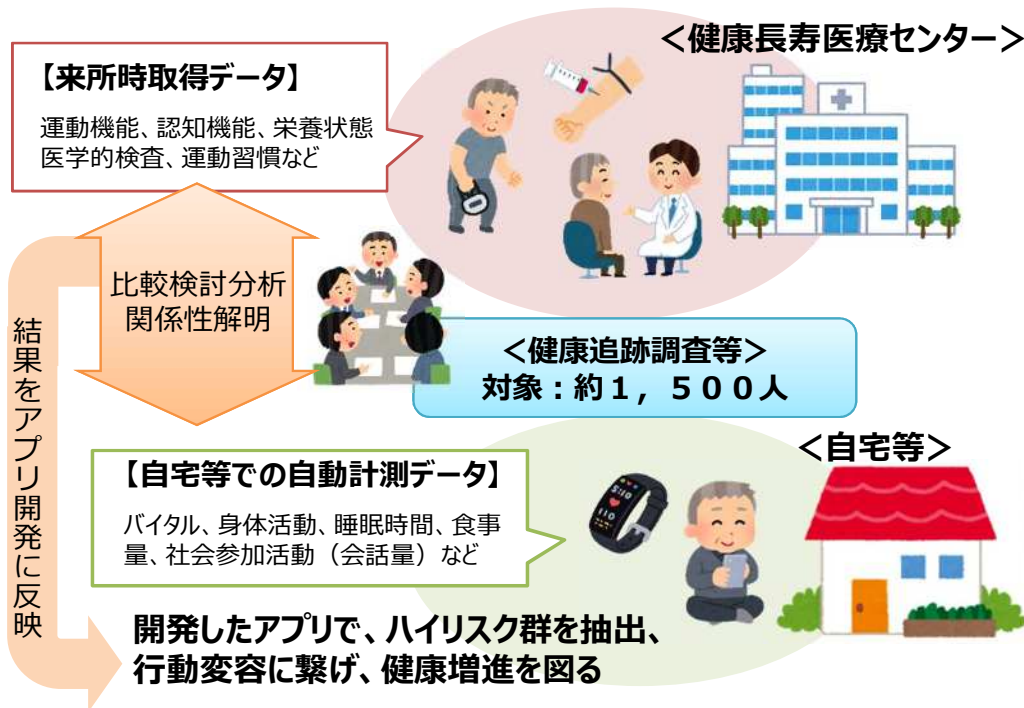
# 高齢者の健康づくりに資するスマートウォッチ等デジタル機器活用事業

## 目的 高齢者の健康増進

健康長寿医療センターの有する知見や臨床・研究フィールドを活用し、高齢者のバイタルや身体活動量を計測できるスマートウォッチ等も用いながら、在宅中も健康状態の把握や病気の予兆を察知できるアプリの開発等に繋げるとともに、高齢者の行動変容を促し、健康増進を図る。



### 事業実施の概要



### 事業の進捗と令和5年度の取組

#### ＜事業の進捗＞

- ・追跡健康診断等に参加する高齢者（千代田区・板橋区在住）とセンターのフレイル外来患者の合計900人にスマートウォッチ等を配布（令和5年1月末現在）
- ・日常のバイタル、睡眠時間、食事量、社会参加活動（会話量）などをスマートウォッチ等で自動計測、データを収集

#### ＜令和5年度の取組＞ 予算額332,690千円

- ・1,500人の被験者を確保し、スマートウォッチ等から得られたバイタルデータと、追跡健康診断等の結果とを、健康長寿医療センターの知見を活用して、詳細に比較分析
- ・フレイル、要介護、高血圧症、糖尿病、不整脈など多様な健康リスクと自動計測データとの関係性を解明
- ・スタートアップ企業等と連携し、健康状態や病気の予兆を把握できる健康リスク可視化アプリ（プロトタイプ）の開発に取り組む。